

2008年7月14日 エクセルコンバータ改定

エクセルコンバータを改定いたしました。エクセル2007における様々な不具合は、マルチスレッドを無効にすることで解消できることが分かったため、エクセル2007へのコンバートの際に、合わせてマルチスレッドを無効設定するように変更いたしました。また、互換モードで97-2003形式のまま使用する場合も考え、保存形式を変更せずにマルチスレッドだけを無効にするモードも加えました。

ユーザーの方は、エクセルコンバータVer1.10をダウンロードページよりダウンロード後、解凍してご使用ください。

基本的な使用方法は従来バージョンと変わりませんが、ブックを登録後、「コンバート」ボタンを押すと、「バイナリブックに変換しますか?」という確認画面が現れますので、変換する(xlsb形式にする)場合は「はい」を、変換しない(xls形式のままにする)場合は「いいえ」を選択してください。

いずれかを選択後、処理が開始されます。なお、いずれの場合も、マルチスレッドを無効にする処理は実行されます。

ご参考までに、マルチスレッドを無効にすると解消される主な不具合を、以下に記します。なお、マルチスレッドを無効にしても、最適化演算等の処理が遅くなるといったようなことはありません。

1. 互換モードでKFシステムクリエイターを開く際に、再計算時間が異常にかかるという現象が解消されます。
2. 何らかのアクションを行なった時に、突然再計算が始まり処理が停滞してしまう場合がある、という現象が解消されます。
3. リンクの編集でリンク元を変更した時にハングアップしてしまう、という不具合が解消されます。
4. エクセル2007上のシステムにおいてセットアップを行なうと、エクセル2003以前の場合と比べて異常に時間がかかる、という現象が改善されます。

現状において、少なくともKFシステムクリエイターの使用に際しては、エクセル2007におけるマルチスレッドの有効化は、百害あって一利なしといった状況です。

ただ、エクセル2007では、標準設定でマルチスレッドが有効となっているため、これを無効にしてやる必要があるのですが、実はいくら無効にしても再起動の度に有効になってしまいます。

再計算の自動設定などと同様、この設定は、エクセルのブックに対してなされるものであり、ブックを開いた状態でマルチスレッドを無効化し、そのまま保存してやらなければなりません。

そうすることにより、次にブックを開く時にはマルチスレッドが無効となってオープンされるため、互換モードでも素早くブックを開くことができます。

ちなみに、マルチスレッドを無効化したブックを、以前のバージョンのエクセルで開いた後、上書き保存しても、無効化設定は保持されません。

その後、このブックをエクセル2007で開いても、マルチスレッド無効で実行されます。

実は、マルチスレッドを無効化する場合、当然、その前にマルチスレッドが有効となっているブックを開かなければならないのですが、その際の再計算に時間が掛かってしまい、なかなか処理が進まないといった問題があります。

ところが、マルチスレッドを無効化したブックを開いた状態で、マルチスレッドが有効なブックを開くと、そのブックのマルチスレッドが無効化することが分かりました。

改定されたエクセルコンバータでは、マルチスレッドを無効化していますので、登録したブックを互換モードで開く場合でも、ストレスなく処理を進めることができます。

エクセルコンバータを使用しない場合でも、エクセル2007を起動した状態(Book1が開いた状態)で、OfficeボタンからExcelのオプションを開き、詳細設定画面の数式の「マルチスレッド計算を行なう」のチェックを外してオプションを閉じ、そのブックを適当な名前で保存してから(これが重要です)、そのブックを開いたままの状態ですべてのブックを開けば、マルチスレッド無効の状態ですべてのブックが実行されます。

マルチスレッドを無効化しただけのブックを常駐させることで、それ以降に開くブックのマルチスレッドを無効化させることができるわけです。

ただし、この場合、マルチスレッドをあえて有効に設定しているブックを開いても、無効化してしまいますので(これはこれで問題だとは思いますが)、ご注意ください。

以上、エクセルコンバータの改定内容についてご報告いたしました。ご不明な点等ございましたら、お問い合わせページよりお問い合わせください。